

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	平成27年6月8日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	三重県津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成27年7月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさとでは、入居者・職員が常に笑顔をもっと、日々の生活をしている。お風呂は「天然温泉ふるさと」で、榊原の湯を利用している。ほぼ毎月行事があり、初詣・地域交流餅つき・夏祭り・敬老会・クリスマス会・外食・ドライブ等多彩である。今年の2月にスプリンクラーも設置し、今までとは違った形での、火災時避難訓練を実施していく。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は津市郊外の、近くには住宅団地や花園もある緑に囲まれた閑静な丘陵地に立地している。事業所内は白壁に木目の腰板、清掃の行き届いた落ち着いた佇まい、職員の異動も少なく、職員間のコミュニケーションはもとより、利用者との和気あいあいとしたやり取り等、和やかな雰囲気が感じられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふるさとの現場独自の理念である「笑顔・家族」をモットーに、職員間で良い雰囲気を保てる努力をしている。	法人の運営理念のもと、事業所理念を簡潔に定め、フロアーに掲示すると共に、日々の話合いや職員会議で共有し支援に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が主にしているが、運営会議において、地域の方の施設見学を実施した。餅つきや夏祭り等の行事でも交流がある。	併設のデイサービスや隣接の系列介護施設とは共同行事や防災等運営面で協調している。また、地域自治会会合と連携し、運営推進会議を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事交流時に、認知症についての資料等を元に、説明し、理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、結果等について、職員に報告し、今後活かせる様にしている。	隣接の系列グループホームと一緒に隔月毎に開催している。メンバーは地区の自治会役員と地域包括支援センター職員並びに事業所管理者等で構成され、認知症介護の現状等話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、管理者が直接市役所に出向き、意見交換し、協力を得ている。	管理者は市介護保険課や援護課等職員と各種申請更新手続きや報告時に情報交換や相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者の状況に合わせながら、身体拘束しない様努めている。	重要事項説明書で身体拘束をしない方針を定めている。管理者及び職員は身体拘束の弊害をよく理解しており、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で、日々の業務においても話題に出ており、コミュニケーションを密に取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が市役所やインターネットでの情報に基づき、必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が十分に説明している。面会時には、家族の不安や疑問、要望に対し、職員も対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱は設置しているが、管理者や職員に、直接話をされる事が多く対応し、改善すべき所はすぐ改善している。	重要事項説明書に事業所及び外部相談機関を明記しているほか、エレベーター内に意見箱を設置している。また、管理者・職員は、日々の話し掛けや家族面会時に話し易いよう気配りしている。受けた意見・要望等は職員会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員の意見や提案に対応しているが課題が多いと感じる。	管理者は日常の会話及び毎月の職員会議で、職員の意見や提案を受けとめると共に、案件によっては上申し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望は、管理者が必要と判断した際は、代表者に伝え話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなかなか参加出来ていないが、業務の中から色々なものが得られていると理解している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流はあまりなく、進んでいない現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心で穏やかな生活が送れる様支援し、関係作りもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心になり、不安や疑問にも真摯に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況次第では、隣接施設とも相談しながら、家族に説明している。提携医に相談や助言も求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活に合わせながらも、状況に応じて関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも面会時を主にして、話し合いながら関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られても、本人が混乱しない様、職員がうまく間に入り対応する時もある。	職員は一人ひとりに寄り添い、或いは、テレビ番組や日々のレクリエーションを通して思い出話や昔の生活等話し合うことに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然にお互いが助け合える状況を作れる様に支援もしているが、一人の空間もまた大事であり、状況に応じて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に長期入居されていた場合には、家族から近況報告して頂ける時がある。が、少ないのが現状である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合わせ、寄り添いながら、出来る限り対応している。	職員は一人ひとりに寄り添い、アセスメント記録及び日々の暮らしから趣味や特技等を知り、その日その時の希望や意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前調査表を基に、入居後の職員と入居者の関係作りに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今年より業務日誌に1日3回定期的に居間の温度・湿度を計り記入する事を始め、バイタルチェックは勿論だが、体調管理により力を入れていく。提携医との連携も含め状況次第で、管理者対応し救急要請し対応する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度職員会議があり話し合いをしている。ケアプランは3ヶ月に1度見直し、家族への説明を直接行っている。	計画作成担当者は、日々の支援状況をもとに毎月の職員会議で個々にモニタリング(評価)を行ない、介護計画を見直し、変更がなくても3ヶ月毎に更新し家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診・介護記録を活用し、情報共有をしている。また問題点があれば、緊急性に限り、その日の職員同士で判断し決定している事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で状況が変わっていく為、その場その場に対応に重点を置きながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を第一に、日々の生活が楽しく、豊かに暮らせる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医がかかりつけ医になっているケースが多く、適切な医療を受けている。緊急時は管理者や職員が中心で対応している。	事業所の協力医(毎月往診あり)の他、利用前からのかかりつけ専門医の診療も受けられるよう家族と協力し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者から助言・相談時には、関連施設の看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、病院や施設関係者・家族・提携医と連携を取りながら、安心して治療が受けられる様、関係構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には重度化・終末期対応は困難であり、入居契約時に管理者から家族へ説明している。	終末期のあり方、重度化した場合の事業所の対応については、入居に当たり本人・家族と話し合っている。また、身の自立ができなくなった場合は事業所での生活は困難であり、入院や転居の時期等主治医や家族に相談しながら、できる限り本人と家族の意向に副えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医にも急変時等の対応を聞きながら、その時々適切な対処・連絡・通報が出来る様準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5/19消防訓練が実施され、消防署員と管理者が現状について意見交換を行った。消防訓練以外でも、独自の避難訓練を復活させていきたい。2月にはスプリンクラー設置しました。	5月に階下のデイサービスと合同で消防立合いのもと、通報・避難訓練とAED操作訓練を実施している。	訓練は全職員が繰り返し実施することにより身に付くので、夜間災害を想定した招集や待避・誘導訓練等、更には机上での訓練等毎月の実施と評価を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、尊敬の念を持ちながら、傷付けない様に対応している。注意する際もさりげなく対応している。	管理者と職員は態度、挨拶、言葉かけ、家族との対応等について日々話し合い、互いに啓発し合っており、家族等訪ね易い雰囲気である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が出来る方には、出来るだけ決定に沿った形で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせられる様、希望も聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて服装準備支援している。自らされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸・茶碗・湯呑以外はふるさとのを使用している。盛り付けを手伝って頂く時もある。	オープンキッチンの音、動き、匂いが漂う食堂では皆で咀嚼体操を行ない、食事中はテレビを消しBGMの流れる落ち着いた中、職員の介助・見守りで食事に集中できる支援をしている。また、偶の外食やおやつ作りも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は職員がしており、業者委託で材料が配送され献立も決まっている。栄養のバランスも良い。食事摂取表を作成しており支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの支援、週1でポリデント洗浄実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレがあり、プライバシーも守られている。定期的にトイレ誘導し、個々に合わせて対応・支援している。	本人の訴えや表情から理解に努め、一人ひとりのパターンに合わせた誘導により各居室のトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬処方に頼らず、便秘解消運動を取り入れて実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれ週に2回午後からふるさと大浴場でゆったり入られている。榊原温泉の湯である。曜日や時間は決まっているが、状況に合わせて対応している。	階下のデイサービスの浴場を使用し、週2回／人、午後の入浴を支援している。湯は温泉で、広い浴槽でのマンツーマン介助は利用者全員の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息(昼寝)時間を取り入れ、一人ひとりに合わせサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医には何でも話せる関係を構築しており、服薬管理も症状に合わせて、助言・対策してもらっている。投薬表を作ってあり緊急時にも役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業(洗濯たたみ・新聞たたみ・掃除など)に力を入れたり、計算など頭を使って会話を楽しみながら日々過ごされている。一人ひとりに合わせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴・ドライブ・外食などしている。散歩時には、地域住民と会話(会釈)される方も見える。	日頃はベランダに出て新緑を眺めたりの外気浴や、建屋周りの散歩を楽しんでいる。また、デイサービスでの行事に参加したり、花見等行楽に出掛けたり、系列法人合同で行なう地域の夏祭りに参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は金庫内保管している。使用希望時は、家族と相談し、管理者が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者が必要と判断した場合以外は、電話支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は狭く職員同士で「狭くても広く感じられる」空間作りをしている。掲示板には写真等があり、楽しそうに見ている方もいる。	居間兼食堂は清掃が行き届き、狭いながらもバリアフリーで整理整頓され、腰掛や食卓等が配置よく置かれている。木目の腰板の白壁には職員の似顔絵、七夕等色紙細工等適度に飾られ、生活感が覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげる空間はないが、職員がその中で考えながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり昔から使用していた物を持って来られる方は少ないが、逆にシンプルで居心地が良い方が多いと感じられる。	清掃が行き届いた居室は窓からベランダへ出入りでき、トイレ・洗面台・エアコン・棚・ベッドが備え付けられている。その他使い慣れた布団、テレビ・飾り物・日用品等持ち込まれ、各居室とも居心地良さが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は狭いが、職員が雰囲気作りを大切にしており、試行錯誤しながら対応している。		